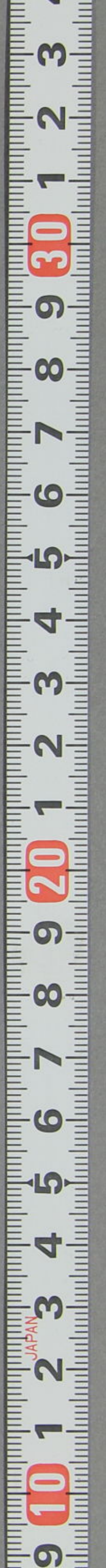


地乃心  
全

□ 9  
4451





夫の此川  
くぬい  
ぬふ  
みえ



繪本池乃心序

支和講ハ其根を公地ニ説

花を詞林ノ發くとりや三百

篇乃詩ト思無邪みさぐすは

か種ハ徒詞の花紙乃て歌

る記よはあらば蓋寂明寺殿

教戒の百首ハ言ぐは屋



抄さうし似し終ごと心丸高し  
う終をねまうし其あさむ乃  
俗かうん甲賤をし多終  
曉し易う志せんよあさむ  
るし予し其意しりもさうま  
多粒と思女乃子すさみか  
して孝弟の便りとせんそ

ほふあ秀抄を附書て心乃  
塵の濁を洗ふ清水の池と名  
けあく昔日梓みかしゆらぬ  
其續乃欠らる紙嘆て書肆  
まう是を乞ぬてびちれと閑  
とあし狂言締語さう身を  
脩め心を正との教をうらびて

後二回

〇





あち  
まが  
下  
に  
人  
と  
生  
れ  
ば  
君  
が  
代  
の  
安  
全  
を  
祈  
ら  
ば  
な  
ま

實<sup>じつ</sup>一<sup>いち</sup>前<sup>ぜん</sup>篇<sup>へん</sup>百<sup>ひゃく</sup>首<sup>しゅ</sup>より<sup>より</sup>と<sup>と</sup>意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>殊<sup>じゆ</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>其<sup>その</sup>需<sup>す</sup>み<sup>み</sup>諾<sup>だく</sup>して<sup>して</sup>  
 絵<sup>え</sup>抄<sup>しやう</sup>を<sup>を</sup>裁<sup>さい</sup>し<sup>し</sup>相<sup>あ</sup>續<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>雅<sup>あこが</sup>子<sup>あひ</sup>れ<sup>れ</sup>  
 子<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>觸<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>其<sup>その</sup>教<sup>あづか</sup>乃<sup>の</sup>玄<sup>げん</sup>淵<sup>えん</sup>  
 至<sup>いた</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>そ<sup>そ</sup>池<sup>い</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>と<sup>と</sup>顯<sup>あ</sup>して<sup>して</sup>  
 人<sup>ひと</sup>乃<sup>の</sup>目<sup>め</sup>小<sup>せう</sup>参<sup>さん</sup>ふ<sup>ふ</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>





ぬきま 氷の  
 いま 免と  
 づら 人ぞ  
 あや づま



人まへ  
 田あふ  
 まて  
 のよか  
 いふよ  
 ねま  
 あり

新編  
 百  
 五  
 十



何事なんごとも  
 あり  
 い  
 ちか  
 後ご合ごて  
 悔く悔く  
 色  
 かり



一言いちごん色  
 懐なつかし  
 い  
 箱はこ  
 人  
 た  
 たり



縁えん石いし籠かご上の上





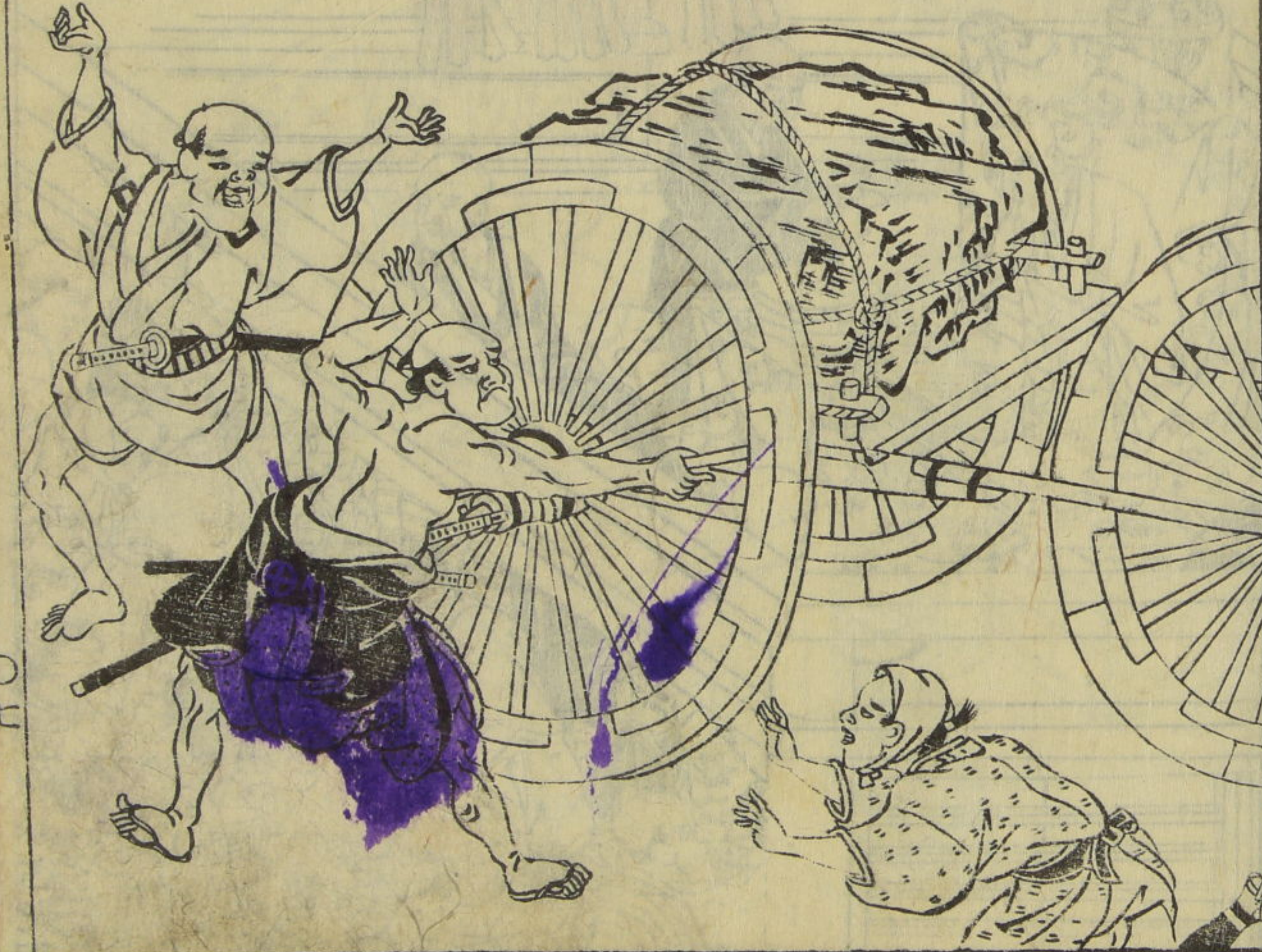
八  
知  
而  
新  
七

CCC  
H

7 7 7 7 7



無理からぬ  
 情紙  
 人  
 情  
 同答



情こそ  
 同答  
 人  
 情  
 同答















あまの  
ほろろ  
言  
まの  
あま  
あま  
あま  
あま

あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの

あまの







けり身みをば  
 我われが心こころ  
 けり心こころ  
 おまへへさ  
 業わざごと  
 心こころ  
 心こころへ

夷百首工



〇十二

見みえり  
 書しよ務む成なり  
 心こころ  
 心こころ  
 人ひと  
 新あらた侯こう  
 きけと  
 心こころ

新編



〇十三









一念も  
惚れん  
あはれ  
うら  
ほろ  
つめ  
魔  
際  
あ  
へ



昔の  
人  
み  
あ  
ま  
あ



い  
う  
し  
て  
さ  
し  
て  
さ  
し  
て  
さ  
し  
て

御ごの  
ま  
よ

さ  
し  
て  
さ  
し  
て  
さ  
し  
て  
さ  
し  
て

か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る

か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る



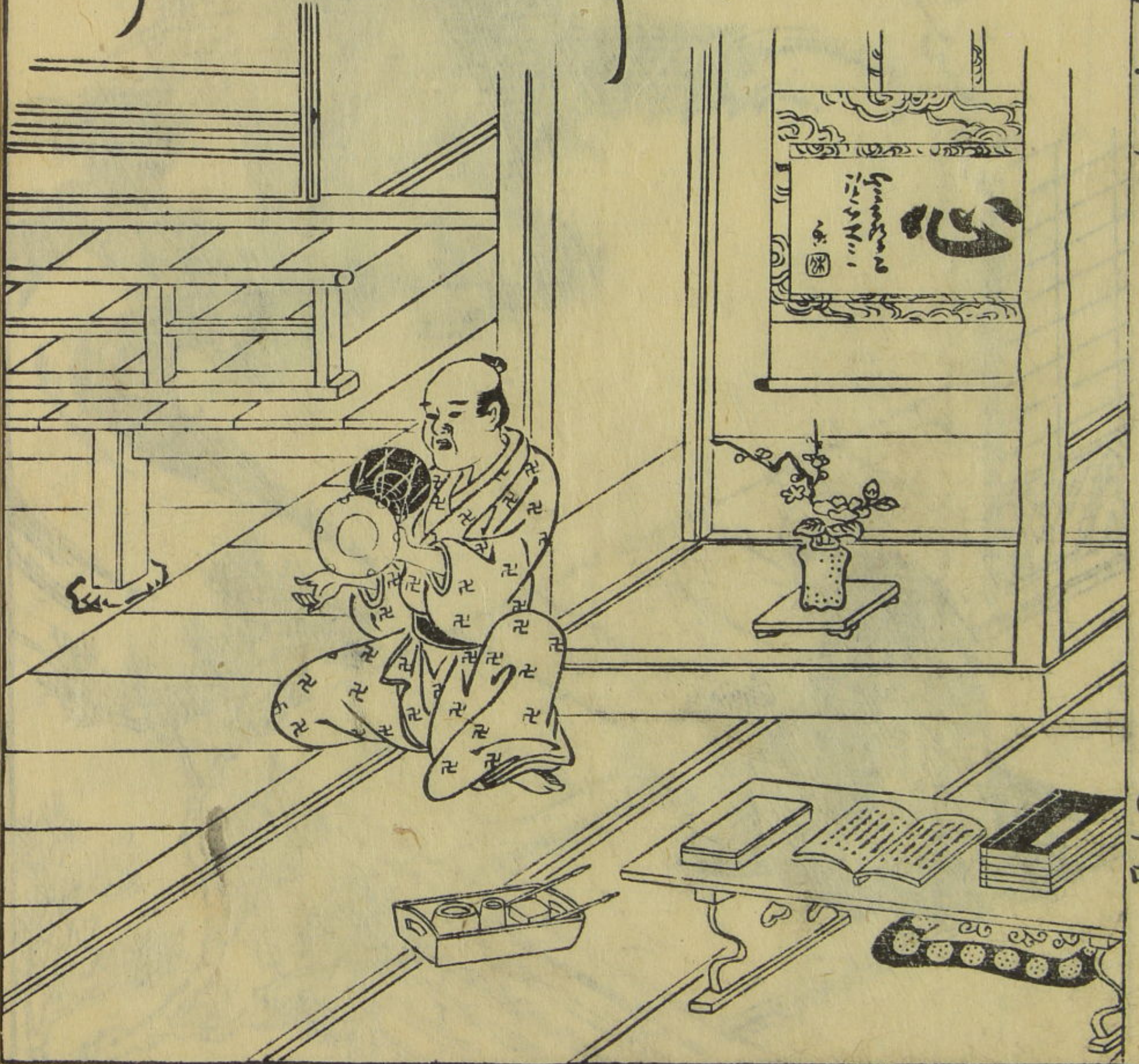
一いつを  
さ  
し  
て  
さ  
し  
て  
さ  
し  
て

か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る

か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る

鬼おによ  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る

万ま独ひとり  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る



御ごの  
ま  
よ

鬼おによ  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る

万ま独ひとり  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る  
か  
ら  
ま  
る



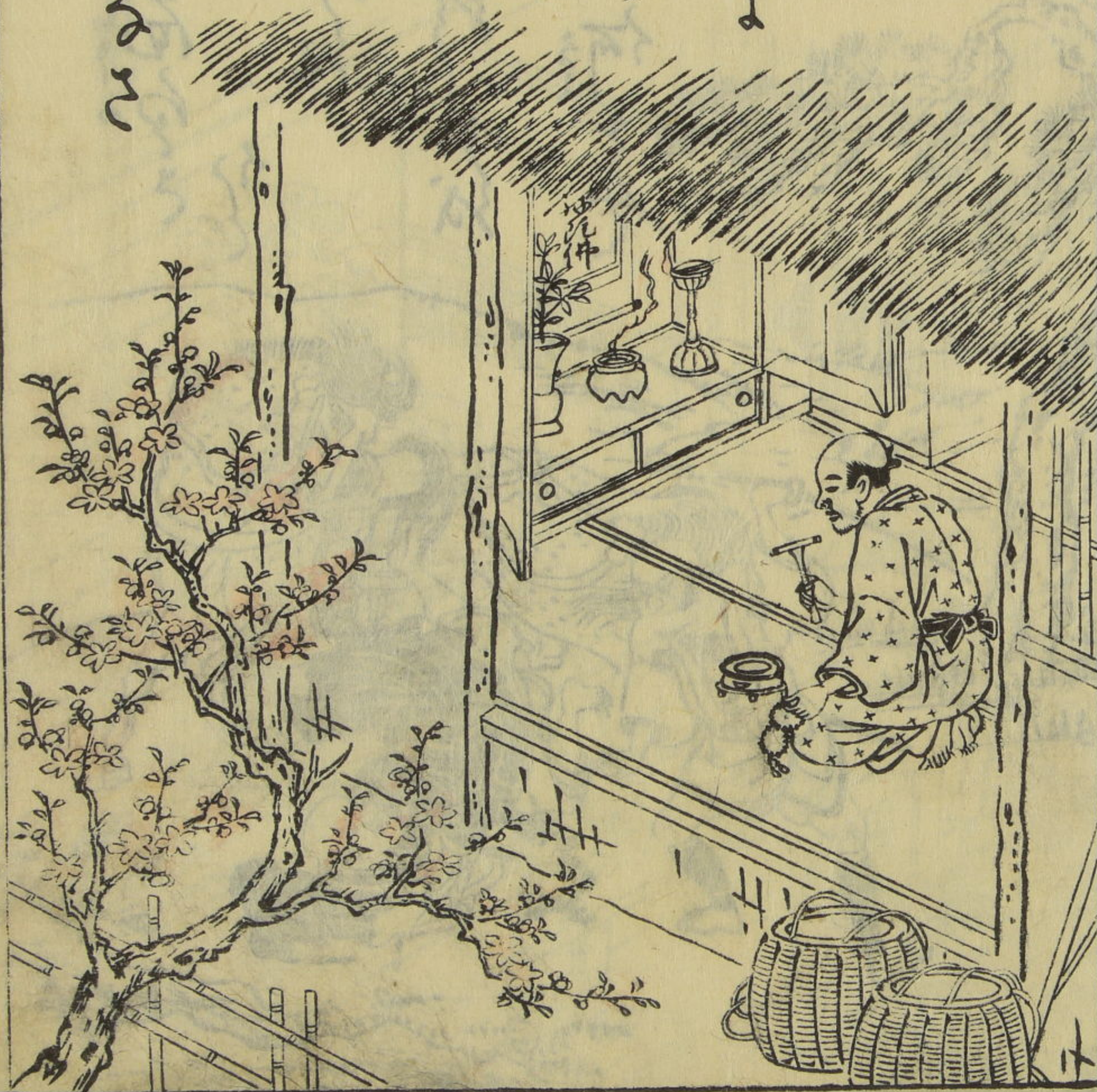


下  
 上

五  
 十  
 五



未生<sup>らいしやう</sup>然<sup>ぜん</sup>  
 うら<sup>うら</sup>ん<sup>ん</sup>  
 おの<sup>おの</sup>世<sup>よ</sup>乃<sup>の</sup>  
 不用<sup>ふよう</sup>公<sup>こう</sup>  
 今<sup>いま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 了<sup>りょう</sup>



乃<sup>の</sup>理<sup>り</sup>非<sup>ひ</sup>  
 廣<sup>ひろ</sup>直<sup>ちく</sup>  
 今<sup>いま</sup>よ<sup>よ</sup>  
 道<sup>みち</sup>理<sup>り</sup>  
 了<sup>りょう</sup>





鏡とま  
 日ぐに  
 雇て  
 人のいれ  
 成り



ほいそと  
 のりぞ  
 白た  
 何きを





おのゝこ

あまの

つらね

しん

あえ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ

あそ



あそ

あそ





人の心  
 常ふ  
 見え  
 笑  
 我れ  
 と  
 うら  
 うら  
 うら



獨股  
 を  
 身  
 の  
 うら  
 うら  
 相  
 成  
 り



江戸  
 巻  
 中

五  
 十  
 五



これ  
竹の  
か  
も  
この  
美  
を  
これ



後  
の  
作  
法  
を  
ま  
け  
る  
生  
子  
を  
有  
財  
鬼  
を



後  
の  
作  
法  
を

511



人終ハ世ヨ一  
 死シぬルはハまマのノまマらラ  
 河カのノるマれ  
 生ナるハぬハあハい  
 人トがハまマらラせハい  
 なるハまマらラせハい



人ト人ト人ト  
 色ノふハまマらラせハい  
 ひハらハやハみハらハせハい  
 行ユくハまマらラせハい  
 なるハまマらラせハい











香せいのまの  
 知ちりんを  
 おおそれれ  
 人ひとよ  
 まままま  
 あり



允と角かくふ  
 身みぞ  
 まままま  
 変まへへと  
 星せい非ひも  
 あある  
 まままま

石いしのい中ちゆう

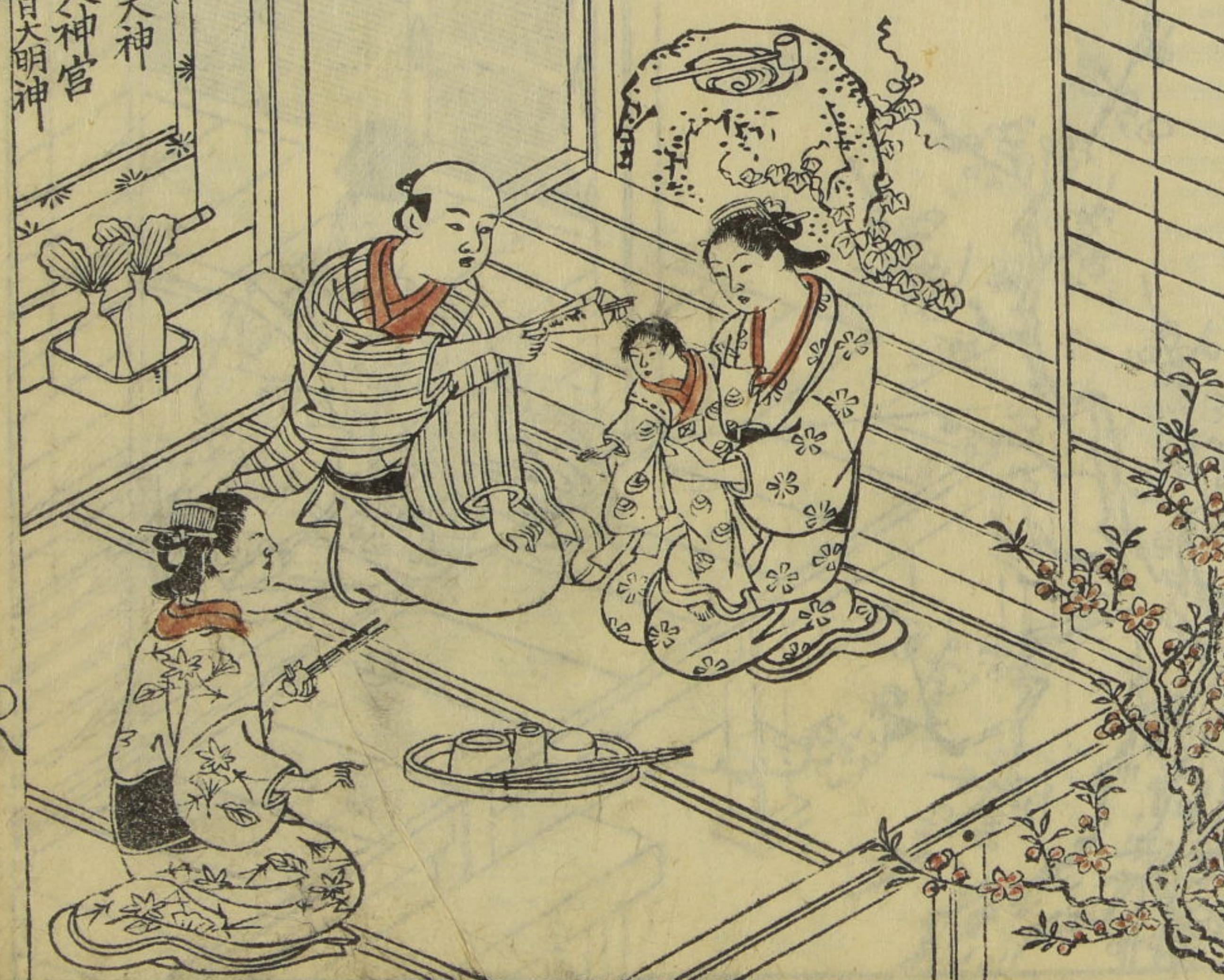






八満大神  
天照皇大神宮  
春日大明神

神しん意い天てん命めい  
おそれ  
ぬべさ  
人ひとの  
目めよ  
神かみの  
目めよ  
天あまの  
命めい



禮智信

死しねるねるは  
一いつ人ひと事ことの  
人ひとを  
生なます  
一いつ人ひと事ことの  
目めを  
一いつ人ひと事ことの  
目めを





東山道



正座の  
ひらくは  
神連乃  
座り  
あはれ  
とく  
うき

お果

冒

とく

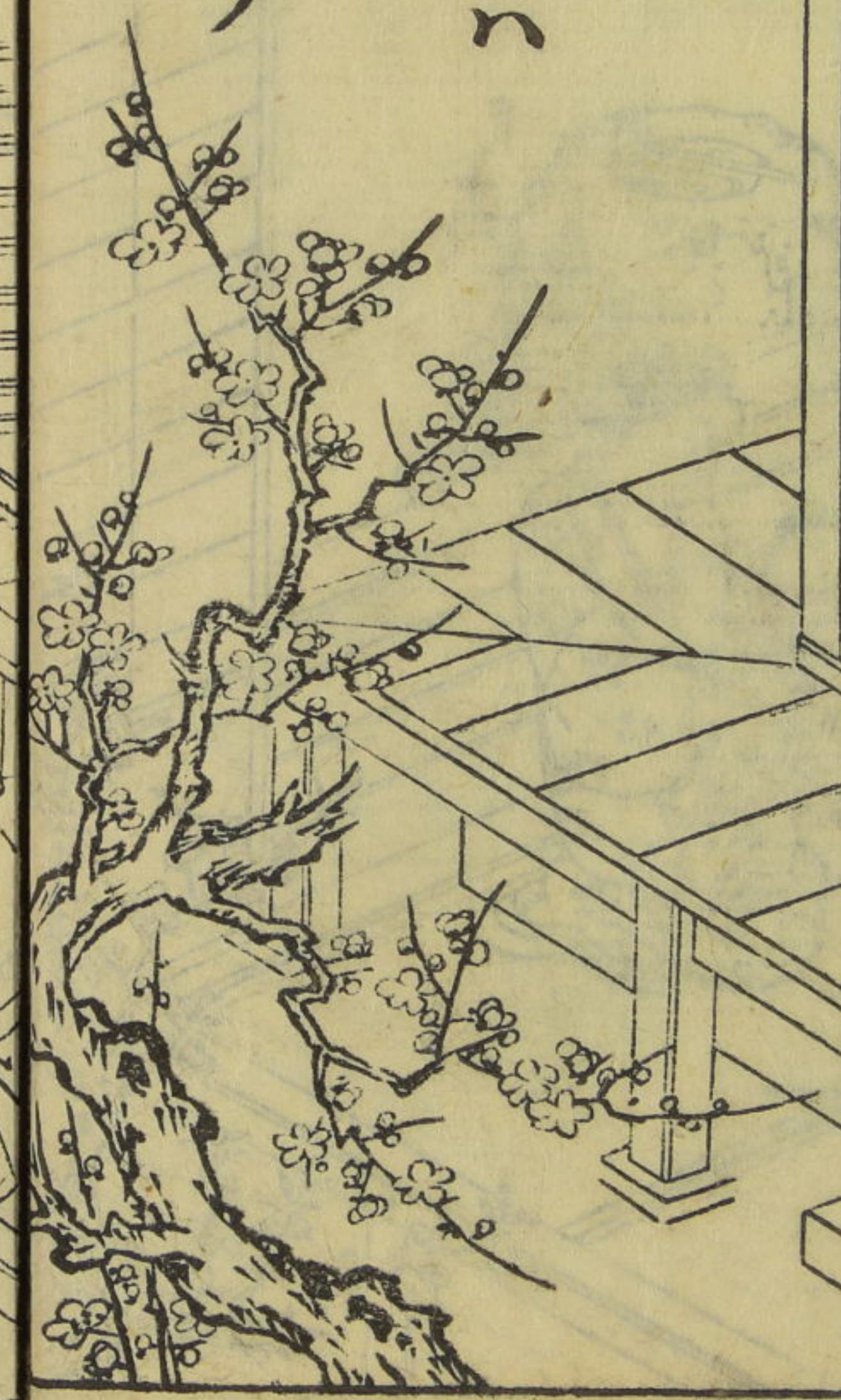
あはれ

中  
とく

あはれ  
あはれ

お果

あはれ



東山道

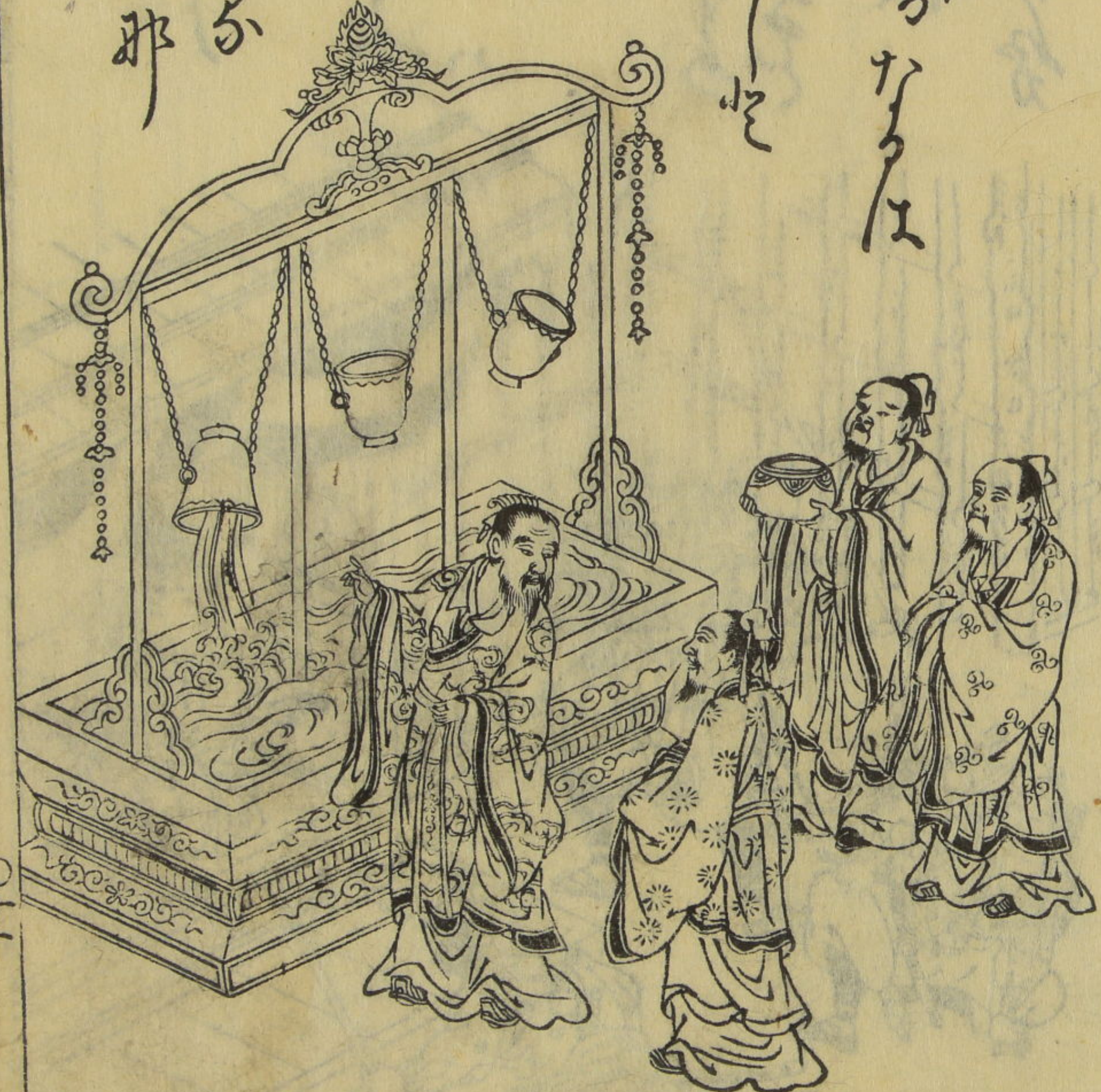
東山道







何<sup>なに</sup>が<sup>が</sup>も<sup>も</sup>  
 十<sup>じゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>  
 あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>  
 盃<sup>さかづき</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>



身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>分<sup>ぶん</sup>け<sup>け</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>ろ<sup>ろ</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>  
 今<sup>いま</sup>  
 家<sup>いえ</sup>を<sup>を</sup>か<sup>か</sup>て<sup>て</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>  
 け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>



紅毛首中





顔くせ紙  
 ほのぼ  
 きしん  
 知れぬ  
 かく  
 何よ  
 せん



身のば  
 けり  
 君  
 口  
 身を  
 刀の

江戸百景  
 中



女房の  
酒の  
急いで  
物い  
らう  
あそ  
心ゆく  
様



そば  
わら  
し  
の  
垣の  
ぬ  
う  
や









出で  
 立寄  
 根性  
 まが終る  
 人  
 みて  
 みる



せう  
 ちぬ  
 を  
 こと  
 小  
 りん  
 りん  
 びん









道を説

文字紙

口み

いなが

手紙

を

手紙

うり



余はる

方のと紙

を

人

紙

り

成

う





眞か  
 あん  
 立居  
 けり  
 主も  
 神  
 人



何事  
 今  
 けり  
 けり  
 けり  
 けり  
 けり  
 けり





きりきり  
一度ど  
二度ど  
こそ  
たしな  
あひ  
腹ぞ  
さゆ  
る  
ね



赤  
ゆ  
さ  
う  
の  
ひ  
ま  
た  
た  
り  
か  
な  
り  
な  
り  
な  
り













碁ご 双六すわろく  
 人ひと そよま  
 負まけ 後ご  
 顔かほ 紅べに  
 足あし 踏ふ



碁 双六 下

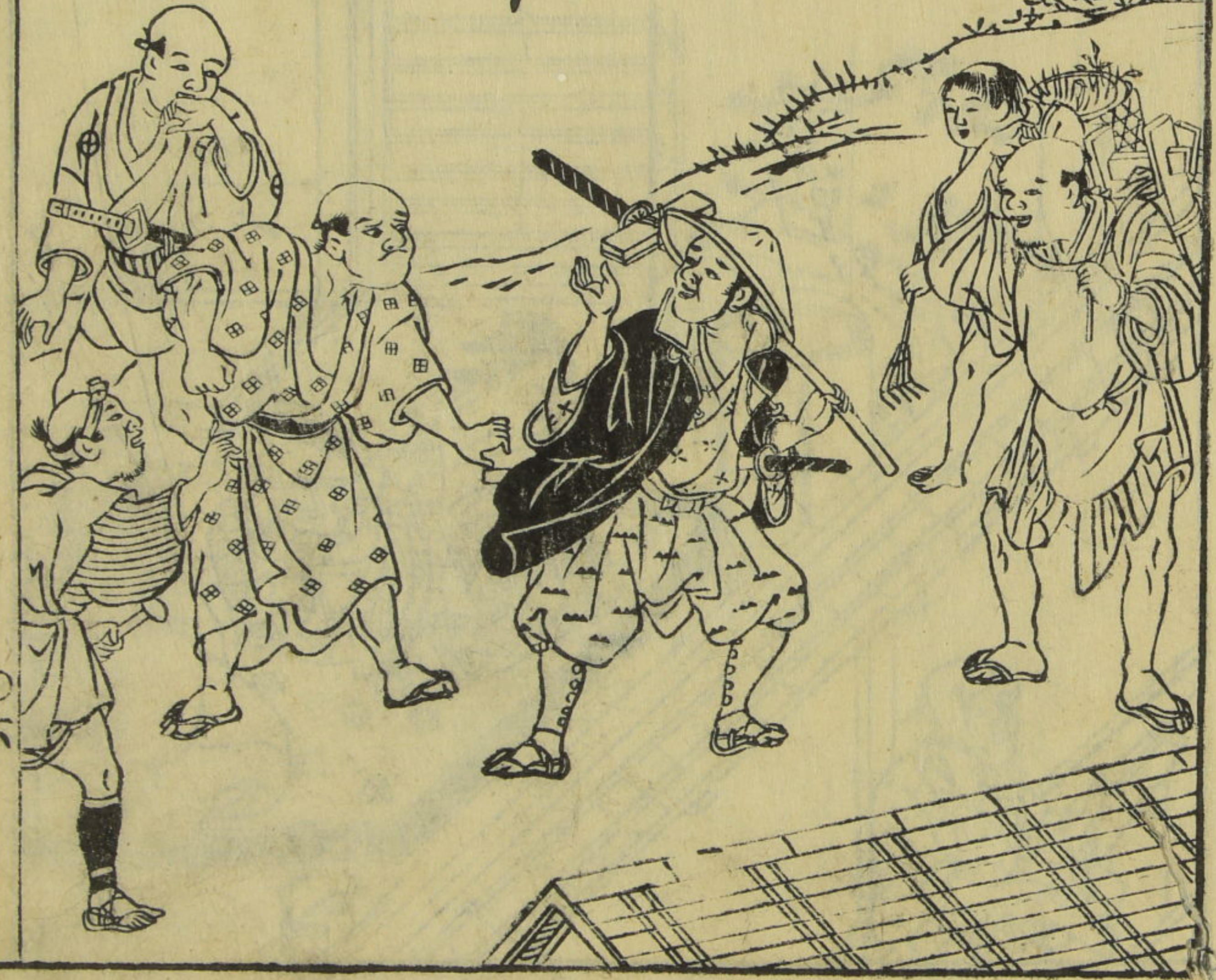
痛いた 腦のう 病びょう の  
 けこた  
 けこた  
 けこた  
 けこた



割 巻 下



ひり  
 身  
 こゝろ  
 事  
 ても  
 己  
 事  
 主  
 の  
 事  
 紙  
 ね  
 へ  
 欠



酒  
 人  
 け  
 ね  
 尾  
 碓  
 礼  
 義  
 那  
 け  
 け





解<sup>と</sup>ら<sup>れ</sup>た  
 ち<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>  
 後<sup>ご</sup>を<sup>も</sup>て  
 悔<sup>く</sup>い<sup>ふ</sup>  
 顔<sup>かほ</sup>  
 さ<sup>さ</sup>



寝<sup>ね</sup>て<sup>お</sup>ち<sup>い</sup>  
 明<sup>あ</sup>け<sup>る</sup>  
 心<sup>こころ</sup>を<sup>な</sup>  
 へ<sup>い</sup>ら<sup>ぬ</sup>  
 心<sup>こころ</sup>を<sup>な</sup>  
 へ<sup>い</sup>ら<sup>ぬ</sup>





只一人  
 けしを  
 ようれ  
 と  
 人の  
 しげ  
 我れ  
 した  
 かり



穴  
 落ち  
 ひそ  
 多  
 公も  
 おも  
 な





道心だうしん  
 俗人ぞくじん  
 あか  
 けさ  
 まや  
 偽いつはり乃  
 至いた愆げん愧き  
 京屋



知ち命めいく  
 沖ゆのん  
 庭にわまりま  
 あり  
 ぬん人びと  
 祠ほこり幣ひに  
 いは





いろんが  
 あらう  
 そば  
 いろん  
 いろん  
 いろん  
 いろん



人のきり  
 いろん  
 いろん  
 いろん  
 いろん  
 いろん  
 いろん





折る  
わくよ  
あさね  
とる  
い  
ほ梅  
の  
学  
な



ほごりの  
急事  
わん  
月の  
人の  
様  
折る  
結  
一











能<sup>の</sup>あまて  
 心<sup>こころ</sup>いづ<sup>いづ</sup>  
 人<sup>ひと</sup>よ<sup>よ</sup>も  
 かくて  
 人<sup>ひと</sup>ご<sup>ご</sup>  
 なる  
 とき  
 とも

秋の  
 風

〇  
 十  
 五



人の  
 心<sup>こころ</sup>は  
 け<sup>け</sup>る  
 も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>い  
 り<sup>り</sup>や  
 け<sup>け</sup>る  
 も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>い  
 り<sup>り</sup>や  
 け<sup>け</sup>る  
 も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>い  
 り<sup>り</sup>や

秋の  
 風

〇  
 十  
 五





下の人乃  
 留るいぢふと  
 稀まれ  
 ちのく  
 何を  
 求  
 えん



貧し  
 物ある人を  
 あるは  
 げあも  
 けり  
 けり  
 けり







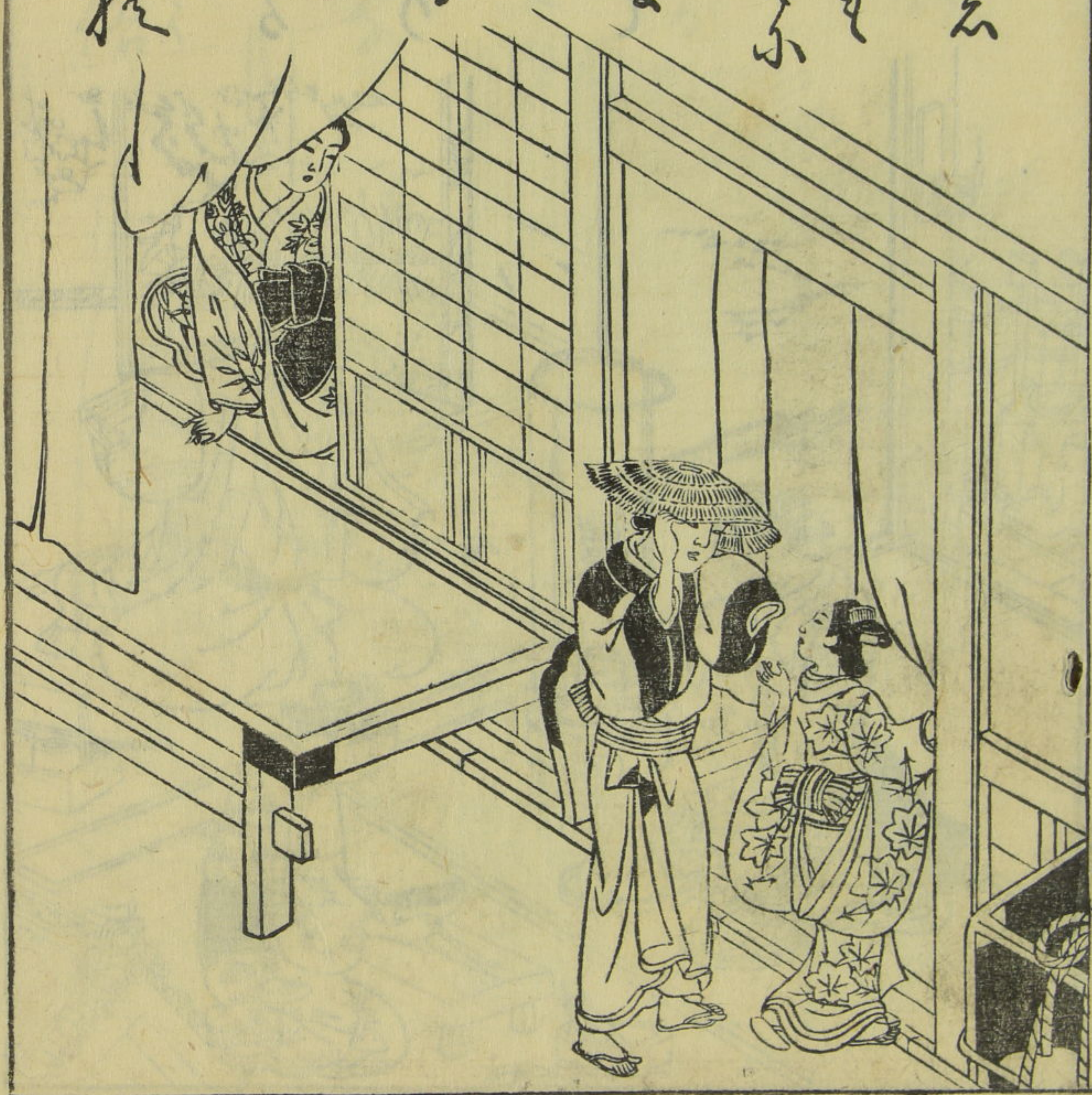




よし  
 秋の  
 ういぐ  
 おく  
 乃理を  
 あん  
 かり



おい  
 みる  
 色  
 け  
 け  
 け  
 け  
 け





花洛文華堂

畫工 西川祐信



元文四年未正月吉日

寺町通松原下町

京都書林 菊屋喜兵衛版

25



